

自動車リサイクルの高度化等に資する 調査・研究・実証等に係る助成事業(2017-2019)

事業報告会資料

自動車リサイクルに関する消費者への周知活動

(公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

2020年8月5日



公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

NIPPON ASSOCIATION of CONSUMER SPECIALISTS



1988年6月発足



全国7支部 約2,500名 (2020年4月現在) 替助会員 108団体



NACS 環境委員会

- •1999年4月から正式に活動
- 持続可能な社会を目指し、多様な関係者と連携し、環境に配慮した暮らしを可能とするための提案を生み出し、普及する
- ・持続可能な社会につながる商品選択を進めるべく 「わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている」 「商品の一生を知ろう」をキーワードに勉強会やワークショップ、 行政・企業等との意見交換会等を行っている





- 1. はじめに 事業概要
- 2. 活動内容と主な成果
- 3. 本事業を通して得られた知見
- 4. 今後の課題と想定される解決方法(考察)



はじめに 事業概要



■ 事業の目的

自動車の所有・非所有にかかわらず、若年層を含むすべての消費者に対し、 自動車リサイクルに関する現状と課題、消費者の責任等を周知することによっ て、自動車リサイクルへの積極的参加および環境配慮設計の自動車の購入 等、消費者の責任ある行動を促進し、循環型社会の実現に寄与することを目 的とする

■ 事業全体のスケジュール

2017年度 自動車リサイクルに関する現状把握と消費者の認識度調査 2018年度 業界ヒアリング調査、消費者団体等との意見交換会 及び 消費者向け自動車リサイクル<mark>啓発小冊子の制作</mark> 2019年度 自動車リサイクル啓発小冊子を活用した啓発セミナーの全国展開



■ 2017年度実施内容

1)自動車リサイクルシステムに関する有識者等を招いた学習会の開催

目的: 自動車リサイクルシステムの現状と課題、メーカーの対応状況など

に関する知識の習得と課題の把握

講師 : 慶応義塾大学経済学部教授(当時) 細田衛士氏(助成期間外)

一般社団法人日本自動車工業会 嶋村高士氏

2) 自動車リサイクル事業者の視察

目的: リサイクル工場の現場を自分たちの目で確認すること、

及びリサイクル事業者の課題や消費者に望むことなどの把握

訪問先: 解体業者:有限会社昭和メタル

破砕業者:株式会社YAMANAKA

ASRリサイクル施設: 群桐エコロ株式会社

3)Webによる無作為抽出の消費者アンケート、NACS会員アンケートの実施

目的 : 自動車リサイクルに関する認識度、行動の現状と課題の把握

方法 : インターネット調査



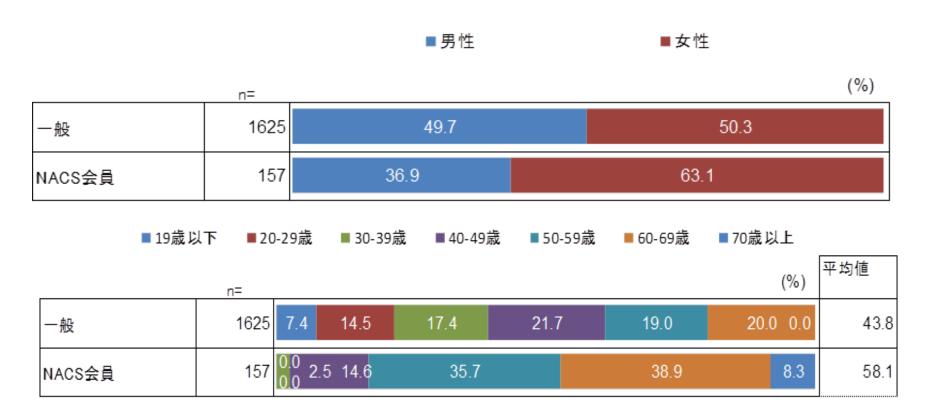
消費者アンケート調査結果2017

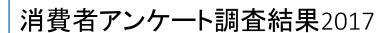
方 法:①消費者アンケート (株)インテージリサーチのインターネットモニター調査

②NACS会員アンケート NACS会員への通知・回答依頼による調査

回答数:①消費者 1,625サンプル (割当抽出法により、人口構成比に準拠)

②NACS会員 157サンプル







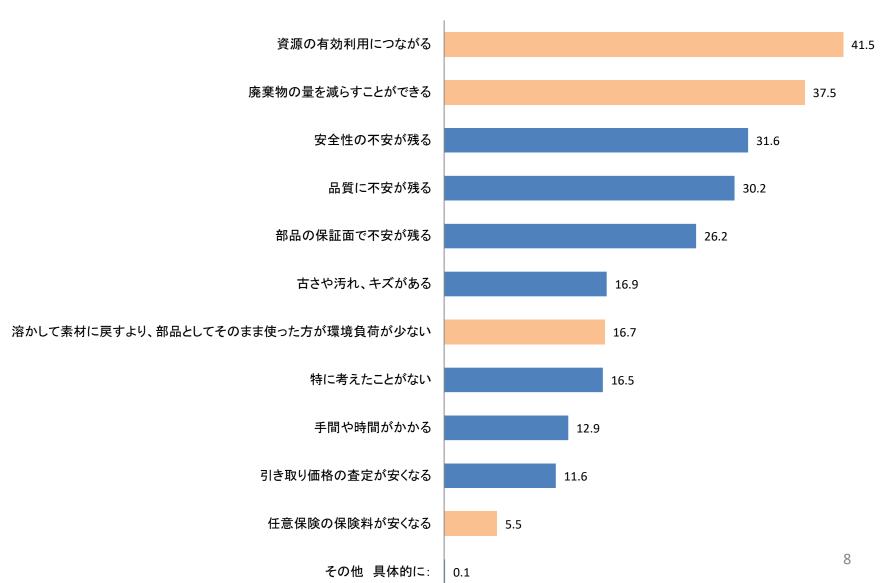
Q9 使用済自動車がリサイクルされていることを知っているか

		0	1	2	3
1段目 2段目	度数 横%	TOTAL	よく知ってい る	よく知らない が聞いたこと はある	知らない
0	TOTAL	1625	249	667	709
		100.0	15.3	41.0	43.6
1	家に自動車が1台以上ある	1301	223	566	512
		100.0	17.1	43.5	39.4
2	家に自動車は無い	324	26	101	197
		100.0	8.0	31.2	60.8



消費者アンケート調査結果2017

Q15 リサイクル部品利用のイメージ





- 2017年度の活動でわかったこと
- ・消費者には、自動車リサイクルに関する情報が十分に伝えられていない
- ・伝えたいことは、自動車リサイクルの目的や仕組み、現状、循環型社会に向けて消費者ができること など
 - →リサイクル部品の活用、環境配慮型設計の自動車の選択などを検討していく
- ・環境配慮設計から廃棄・処理に至る現状(現場の声)を、正確に把握する必要がある
- ・リュース・リビルト部品の積極的利用のためには、不安を緩和できる正確な情報提供 が必要

→次年度の事業計画に反映



■ 2018年度実施内容

1) 業界ヒアリングの実施(4か所)

目的 : 啓発ツール執筆のための取材

訪問先: 日本ELVリサイクル機構

日本自動車整備振興連合会(JASPA)、

日本自動車販売協会連合会

日本損害保険協会

2)消費者団体等との意見交換会(1回)

目的: 普及啓発事業のパートナーとして、啓発方法に関する意見交換参加者: 消費者団体(4団体)および NACS支部(6支部)のキーパーソン

3) 啓発ツールの制作

形 態 : 小冊子+電子ブック(A5版16ページ、カラー、5000部)

ターゲット: 18歳以上の消費者

内容:自動車リサイクル(法)のことだけでなく、資源利用の現状をふまえ、

リユース部品・リビルト部品や未来型自動車の課題などに触れ、

「私たちができること」を考えられるツールとする



- 2018年度の主な成果
- 1)業界ヒアリングで得られた成果
 - •わかったこと:
 - リユース部品・リビルト部品の定義/使用するメリット(環境・経済の視点)/ 消費者への訴求、PRの状況/問い合わせ先/消費者の選択状況と課題/ 品質や安全性の確保策、環境負荷削減効果 →<mark>啓発ツールの内容に反映</mark>
 - ·冊子を活用した広報·普及への協力の可能性 →次年度の事業計画に反映
- 2)消費者団体等との意見交換会で得られた成果
 - ・リュース部品やリビルト部品の存在を消費者に知ってもらうことが大切という認識 の共有
 - ・冊子の配布やWebおよびニュースレター等での紹介などの協力の可能性
 - 冊子は講座などを活用し、説明しながら手渡すことがより有効である
 - ・講座だけでなく、リサイクル工場の見学会をあわせて行うことで学びの質を高めると、自らの実践や普及活動へのモチベーションにつながる

→次年度の事業計画に反映



■ 2018年度の主な成果

3) 啓発ツール「もっと 自動車リサイクル ~限りある資源を大切に使うために~」



A5版16ページ、カラー、5000部 http://www.nacs.or.jp/kankyo/study/auto/leafl et 1903.html





使われなくなった自動車はどう なるの?

"資源のかたまり"である自動車は長期使用した後、 自動車リサイクル法に従って専門の業者が処理をすることで、 再び"資源"になります。自動車のリサイクルは、 私たちが使用済自動車(廃車)をきちんと引取業者に引き渡すことから始まります。 REARINGUEST CONTRACTOR OF THE STATE OF THE S

自動車を購入する時、自動車リサイクル法に従ってリサイクル料金を支払い、 リサイクル券を受け取ります。リサイクル券は最終所有者まで引き継がれます。



自動車を中古車として 売る場合は、中古車販売 業者にリサイクル券と ともに渡します。購入時 に支払ったリサイクル 野会は戻って来ます。 引取業者に引き渡した場合は、必ず 「使用済自動車引取証明書」を買い ましょう。使用済自動車のリサイクル 等の状況を引取業者に確認する場 合や、永久抹消登録の手続きに必要 です。

フロン類型収

引取業者

エアハック語型で

エアバッグは白動 事解体的に参列 助技術が必要う。 白動駅外部の日本 が機構づけられ、 白物におきなった 白物でがあります。 かあります。

リサイクル部品として 再利用

パンパー タイヤ パッテリー パワー ステアリング 触媒 エンジン・ トランス ミッション

専科や燃料として 再資源化

破砕業者

数 シュレッダーダ スト(ウルマの解 体・破砕後に残る ウズ)は白鉛量リ サイクル法で適正 処理が書 間 として再利用する ほか燃料として 再利用します。

ASRリサイクル施設

動として

利用など

※質味の何内の3つの処理に、対費者が負担するリヤイクル料金が充当されています。

など

一番やってはいけないのは、空き地などに自動車を放置すること。 中古車としてのリユースも、使用済自動車としてのリサイクルもされず、 大切な資源が無駄になります。また、エンジンオイルによる土壌汚染等、 周辺の環境にも悪影響を与えます。

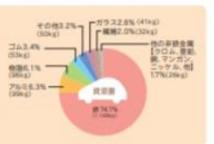
自動車は資源のかたまり

解体業者

自動車は2~3万点の形品から製造され、グラ フのように様々な資源が使われています。

ガンリン事新等素材配成(設置量約1600kgを想定) (出発)再生資源利用等の進んだ日勤率へのインセンティブ 知度(仮称)母子(家)よい

平成29年9月 経済産業省製造産業和分散率体 護衛舎 建場再主・資業報道局総務接リサイクル推定室





リサイクルの施設 を見学しました!

自動車リサイクルの実際の工程、使用 済自動車のフロンやエアバッグの処理、 部品取りから解体、圧縮、破砕、ASRの サーマルリサイクルまでを見学しました。



フロン競

フロンの種別毎に回収機を用いて、 ボンベに回収後、指定業者が、フロン 類破壊処理業者まで選び 処理します。



MELENBETS ALL



安全のためにカバーをかけているところ



作数処理をしたエアバッグ

エアバッグ競

未作動のエアパッグ類を取り外 し、指定引取場所に連接する取外 回収が主ですが、装備された状態 で作動させる車上作動処理を見 学しました。処理後、車両に取り つけられたまま、次工程 製造 に進みます。



シュレッダーダスト (ASR)

プレスされた自動車を破砕機にて粉砕し、金属等を図収。残りの ASRは、燃焼を促進する材料として使用されます。一般的に飛灰 は廃棄物になりますが、ここではさらに有効利用すべく 精錬所に出荷していました。

※各QRコードから詳しい説明範囲が見られます(動画提供:JARC)。

使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)について

2005年1月に施行される前から、使用済自動車は有用な金属・部品を含むため、解体業者や 破砕業者間の売買を通じてリサイクルが行われていました。しかし、金属などの素材や部品と してリサイクルした後に残るシュレッダーダスト(ASR)は埋立処分でした。処分場は適迫し、 処理費が高騰しただけでなく、車の不法投棄・不適正処理も発生しました。一方、カーエアコン 冷媒のフロン類を確実に破壊処理することや、爆発性があるために専門技術を要するエアバッ グ類の処理も十分に進みませんでした。こうした背景のもとに、循環型社会形成推進基本法に 基づく側別法として2002年7月に制定されました。

この法律では車のリサイクルについて車の所有者。自動車メーカー・輸入業者、引取業者・ フロン回収業者・解体業者・破砕業者の役割を明確化しています。ASR、フロン酸、エア バッグ類の処理費用は車の所有者が負担することになっています。

プレス後

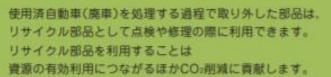
てきること

1-2



リサイクル部品について知ろう

NACS OF OURSIGNER SPECIALISTS





リサイクル部品って何?

リサイクル部品にはリユース部品とリビルト部品があります。



自動車リサイクル部品活用推進キャンペーン

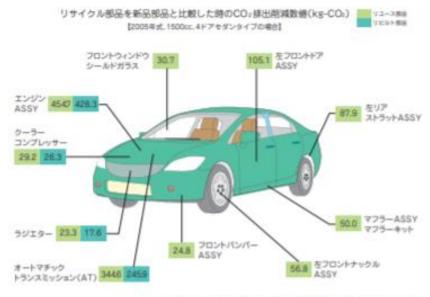
自動車リサイクル部品に関わる団体が集まって、 毎年10月1日~11月30日まで行っています。





リサイクル部品を選ぶとどんないいことがあるの?

リサイクル部品を使えば、新品部品を使うよりもCOz排出量が削減されます。



ASSYとはassemblyの勢で、パーツ挙体ではなく複数が組み合わされた構成原記です。 出典: Green Point Club Ver. 1605

3 R政策と自動車リサイクル

循環型経済システムを構築するための基本的な考え方は。3 R【I Reduce(リデュース: 廃棄物の発生抑制)、『Reuse(リユース: 再使用)、『Recycle(リサイクル: 再資源化)】で、 優先順位は①から頃になっています。自動車リサイクル法というと①のリサイクルのこと かと銀解しがちですが、「使用済自動車の再資源化等に関する法律」が正式名称。3 Rの考え をもとに作られています。リサイクル部品を利用することは、法の中でも消費者の責務と して書かれており、(小定につながる行動の一つです。現状、リサイクル部品を利用するには課題が多いのも事実ですが、中古車に新島部品を付けることが経済性や環境面への影響など総合的に考えた際、果たして合理的な選択なのか?考えてみることも必要ではないでしょうか。



リサイケル部出来等



私たちに **ರಕಕ್**ದಿ

リサイクル部品のこと を良く知って使おう

リサイクル部品を使いたいと 思っても、新品とは異なり、

必要な部品がすぐ手に入るのか、またその 品質は大丈夫なのかなど不安があります。

良質なリサイクル部品が適切に利 用できる市場が形成されるように

「自動車リサイクル部品の利用促進のためのガイド ライン」(2002年5月国土交通者)が策定されています。



リサイクル部品の基準や補償について

捕修部品には、自動車メーカーや部品メーカーが生産する新品部品と、 使用済自動車から取り外したリサイクル部局とがあります。 どちらも道路運送車両の保安基準に適合することになっています。

独自の基準に基づき商品化された リユース部局に認証シールを付け ている団体もあります。例えば、一 般社団法人日本自動車リサイクル 部品協議会では、右のような「品質 保証」問証シールを使っています。



リサイクル部品の製造物責任は

リユース削品

リビルト部島

供給する事業者

再生品专製造又は

使用されたリサイクル部品により損害が生じ た場合は、リユース部品では供給する事業者が、 リビルト部品では再生品を製造又は加工した 事業者が製造物責任を負います。

どういう自動車から 取り外された部品なのかわかるの?

部品の履歴を表示するJIS規格等はまだありません。 しかし、軽自動車及び普通・小型乗用車のリユース部品 のうち、ボンネット、ドア、フェンダ、バックドア及び トランクリッドについては、その状態や回収した車の 情報などについて、「TS D0008」(2018)*で表記方法 が規定され、公表されています。

a「TS」とは将来JIS制定の可能性があると判断され、公表される標準 文書のこと。



使いたい時は、どうしたらいいの?

自動車の点検・修理をする時、ディーラーや整備工場の人に 「リサイクル部品を使いたい」と相談してみましょう。

上記ガイドラインでは、自動車整備事 業者等はユーザーに対し、リサイクル 部局を紹介すること、必要な部局がすぐ に見つからない場合でも、しばらく待つ と入荷する可能性があること等を説明 することが示されています。



自動車は安全が第一です。

リサイクル部品を選ぶときは、部品の点検内容や保証内容について確認し、 自分でしっかりと考えて決めましょう。

現状は想証シールのある部品はそれほど多くはないようですが、

消費者が「欲しい」と声を出すことで、安心できる部品の供給が増えることが期待できます。







移動や輸送のサービスを利用する時に 考えてみよう、調べてみよう

私たちは移動や宅配便などを選して、さまざまな自動車 (パスやトラックなどを含む)を利用しています。サービスを 利用する時も、リサイクルに積極的な事業者を選びたいですね。



バスやタクシー、遷送業などの事業者の環境 への取り組みは、各社のウェブサイトなどに 掲載されています。自動車リサイクルに関す る記載はあまり見られないのが現状です。



リサイクルに 粉心なのはどこだろう? 企業はもっと アビールしてほしいな。



近年、複数の人が自動車を共同で所有・利用する カーシェアリングが都市部を中心に広がっていま す。マイカーを持たないライフスタイルの広がり は、自動車の台数自体を抑制し、資源消費を減らす ことにもつながります。また、事業者の中には、 エコマークを取得しているところもあります。

カーシェアリングのエコマーク

エコマークは、商品の一生を遊して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められ た商品につけられる環境ラベルです。カーシェアリングの認定基準には、提供する自動車 の態費や排ガスに関する基準のほか、廃車時には適正に廃棄・リサイクルする ことなどが必須項目となっています。また、リサイクル部品の活用が摂助され ています。



自動車を購入する時に調べてみよう、 確認しよう

自動車を買う時にどんな選択があるのでしょうか? 電気自動車?自動運転などの性能?デザイン?価格?燃費? それとも環境配慮設計?一緒に考えてみましょう。

資源問題、忘れないで

リサイクルしやすい設計なのか、再生材料が使われているのかなど、カタログでは見つけられない情報を比較するには、グリーン購入ネットワーク 図 (GPN)の「エコ商品ねっと」が使利です。





新華?中古華?

1 台の自動車を長く使うことがなに よりも資源消費の削減につながります。 したがって中古車を選ぶことは環境 配慮の視点からも重要な選択です。

自動車リサイクル料金の確認、忘れないで

契約書の内訳に自動車リサイクル料 金が記載されていることを確認し、 「預託証明書(リサイクル券)」を受け 取ったら大切に保管しましょう。



リサイクルは私たちができる資源確保領

鉱物資源には枯渇問題と共に、供給の不安定性と環境負荷という重要な問題が存在します。 日本は多くの鉱物資源を海外からの輸入に頼っており、その確保は資源国の政治動向や 国際資源獲得競争に大きく影響を受けます。また、資源を地下から採掘する時や精錬時など に排出される多量の鉱物残さなど腫れた地球環境への負荷も忘れてはならない問題です。 このような中、リサイクルは唯一私たちが関わることのできる資源確保値です。



■ 2019年度実施概要

1)説明ツールの作成

目的: セミナーなどでの説明を容易にするため

2)シンポジウムの開催

目的:自動車リサイクルで消費者が「もっと」できることに関する情報提供と

<u>関係団体との意見交換</u>、及び普及啓発ツールの紹介

対象 : 消費者団体、環境教育団体、自動車関係団体等 50名程度

3)地方セミナーの開催(愛媛、宮城)

目的 : 自動車リサイクルに関し消費者ができることに関する情報提供

対象 : 地域の消費者団体、環境教育団体等

4) 小冊子の配布と効果測定

目的 : 消費者および自動車リサイクル関係者への普及と小冊子の効果測定

方法 : 冊子配布とウェブサイトでの電子ブックの公開

NACS会員へのアンケート

5)各種広報活動とウェブサイトによる効果測定

目的: 冊子の更なる普及と、広報活動の効果測定

方法 : 関係者への広報依頼およびアクセスログの把握・分析



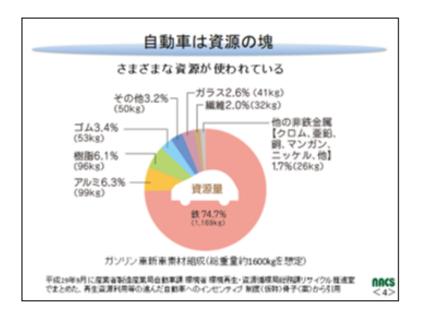
■ 2019年度の主な成果

1)説明ツールの作成

全19ページ

要望件数 12件

- •消費者の学習会
- *出前講座
- ・大学の授業 など



■ 英入4:

自動車はさまざまな資源で構成されていることを示し、資源の塊であることを伝える

黑洲頂稿女

それでは、ここから自動車の話に入ります。 この円グラフは、ガソルン車の新車素材組成(総重量約1600kgを想定)を円グラフにしたものです。

円グラフからもわかるように、圧倒的に鉄が多く使われています。 鉄やアルミなどの金属は有価で取引され、これまでもリサイクルされてきました。

そのほかに、燃**装**向上のための軽量化がすすめられ、アルミニウムや樹脂が使われています。樹脂の原料は枯渇性資源である石油です。

また、次世代自動車と言われるハイブリボ自動車や電気自動車に欠かせない電池に使われるリチウムやニッケルは希少金属ですので、やはい地球を掘って姿態を取り出しています。

このように「自動車は資源の塊」なのです。

■参考情報

リサイクルにおいて、鉄は有価で引き取られていますが資源価格が変動し価格が下がると、逆にお 金を支払って引き取ってもらう逆有償となりリサイクルが進みにくくなる可能性もあります。



■ 2019年度の主な成果

2)シンポジウムの開催

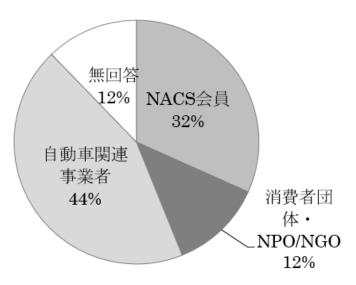
SDGs時代の資源循環を考える「もっと自動車リサイクル」シンポジウム

日 時: 2019年10月11日(金)15:00-17:30

会 場: 日本自動車会館 くるまプラザ会議室

参加者: 消費者団体、環境教育団体、自動車関係団体等 53名(関係者含む)

所属別







■ 2019年度の主な成果

2)シンポジウムの開催

【プログラム概要】

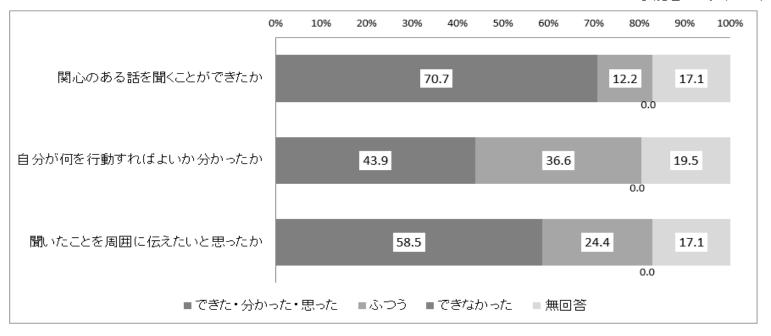
開会あいさつ	NACS & D		
問題提起: SDGs&パリ協定が社会に求める変革とは	環境省環境再生資源循環局 ======		
~資源循環の側面から~			
パネルディスカッション:	<コーディネーター>		
自動車リサイクルを「もっと」進めていくための	赤穂啓子氏(日刊工業新聞社)		
パートナーシップにむけて	<登壇者>		
セッション1 リサイクル部品の利用を促進するために	(一社) 全国消費者団体連絡会		
[ビッション1] リッイシル部間の利用を促進するために	(一社) 日本自動車リサイクル機構		
	(一社) 日本自動車整備振興会連合会		
	(一社) 日本損害保険協会		
というこの 次海領長に割着した自動者の業長に向けて	グリーン購入ネットワーク		
セッション2 資源循環に配慮した自動車の普及に向けて	(一社) 日本自動車工業会		
	(一社)日本自動車販売協会連合会東京都支部		
	(公社)NACS 環境委員会		
今後に向けて:新時代自動車戦略と SDGs	経済産業省製造産業局自動車課		



2019年度の主な成果

2)シンポジウムの開催とアンケート結果

2019シンポジウム参加者アンケ(N=41)



- ・自動車リサイクルに関する情報および普及啓発ツールの紹介のみならず、 リサイクル部品の普及や、資源循環配慮設計の自動車の普及に向けて、 事業者と消費者双方の現状と課題、そして期待について話し合う場となり、 参加者のみならず、登壇者からも好評を得た。
- ・自動車リサイクルをもっと進めるためのアイデアは報告書P16-17参照



■ 2019年度の主な成果

3)地方セミナーの開催

「もっと自動車リサイクル」セミナー&リサイクル工場見学会

【四国・松山】 日時 2019年10月17日(木)11:00-16:50

参加者 NACS、消費者団体、環境教育団体から 計24名

見学先 金城産業(株)

【東北・いわき】 日時 2019年11月18日(月)11:00-19:00

参加者 NACS会員 11名

見学先 (株)キャレックいわき、(株)YAMANAKA、小名浜精錬(株)

- ・参加者全員が「見聞したことを周囲に伝えたい」と回答
- ·小冊子配布希望10件260冊、PPT希望8件
- ・工場見学は、リサイクル技術や、事業者の誠実な取り組みなど、 自動車リサイクルへのポジティブイメージの醸成に効果あり
- ・東北では来年度も見学会を企画したいとの意向あり



■ 2019年度の主な成果

4)小冊子の配布と効果測定

<配布実績>

NACS会員への配布 (7月1日) 2,637冊

NACS会員以外への配布 (随時)

1.416Ⅲ

消費者団体、環境学習センター、自動車リサイクル関連事業者団体、 工場見学参加者、その他(学習会、出前授業、大学の講義、研修等での配布)

<アンケートによる効果測定>

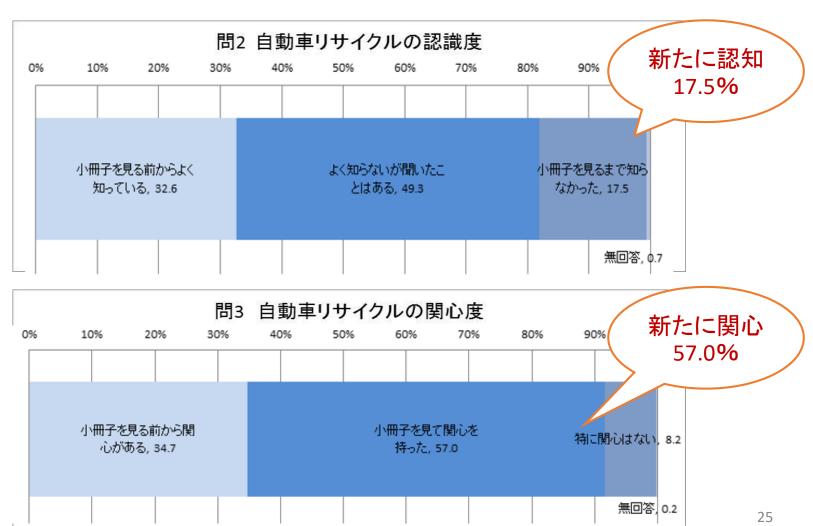
調査方法: NACS会員への調査票配布、ウェブ及び郵送での回答回収調査実施期間: 2019年7月1日(月)~7月31日(水)

- •回収数611サンプル(回収率:約21.8%)
- ・回答者は女性が6割弱であり、年代は50~60代が4分の3を占める
- 調査結果については次ページ以降を参照



か。

問2 あなたは、使用済自動車(廃車)が、リサイクルされていることを知っていましたか。 問3 あなたは、使用済自動車(廃車)が、リサイクルされていることに関心があります





問5 あなたは、小冊子を見て、使用済自動車(廃車)がどのように リサイクルされるか分かりましたか。(回答は行ごとに1つ)

- ■知っていたが、小冊子を見て理解が深まった
- ■小冊子を見ても理解できなかった

- ■知らなかったが、小冊子を見て理解できた
- ■無回答

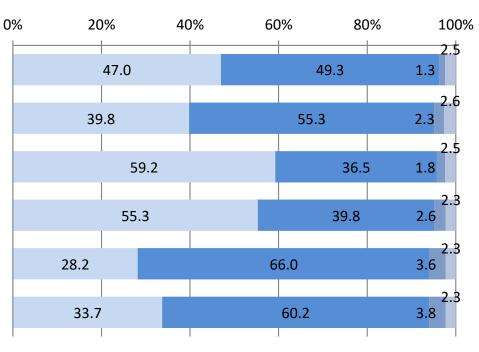
取り出した部品をそのまま再利用すること(リユース部品 ※1) 取り出した部品を修理して再利用すること(リビルト部品 ※2)

鉄・銅などの有価物は形を変えて再生利用すること

フロン類を適切に回収し、破壊処理すること

エアバッグ類を安全に処理すること

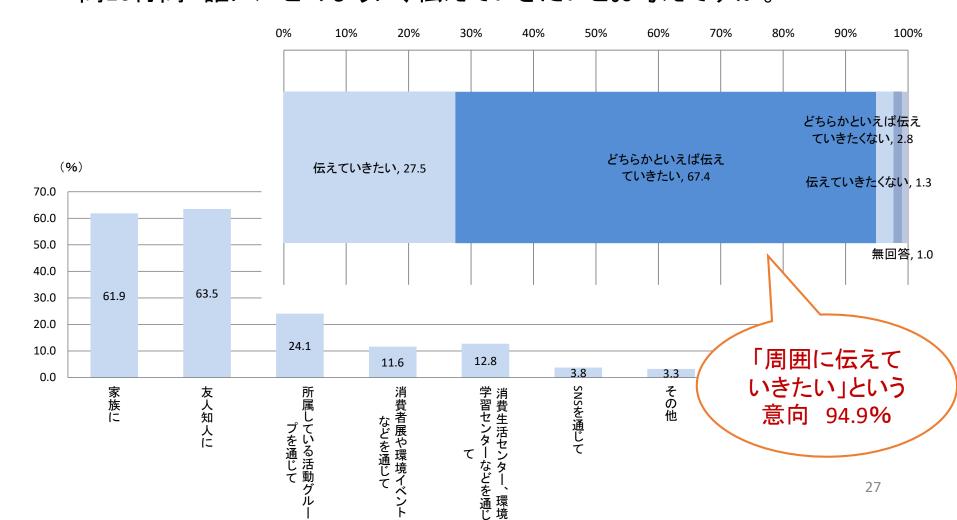
シュレッダーダスト(※3)は原材料に戻し再資源化したり燃やして熱回収したりして、残りは埋め立てること



• いずれの項目も、小冊子を見たあとでは理解できた割合が9割を超えている。

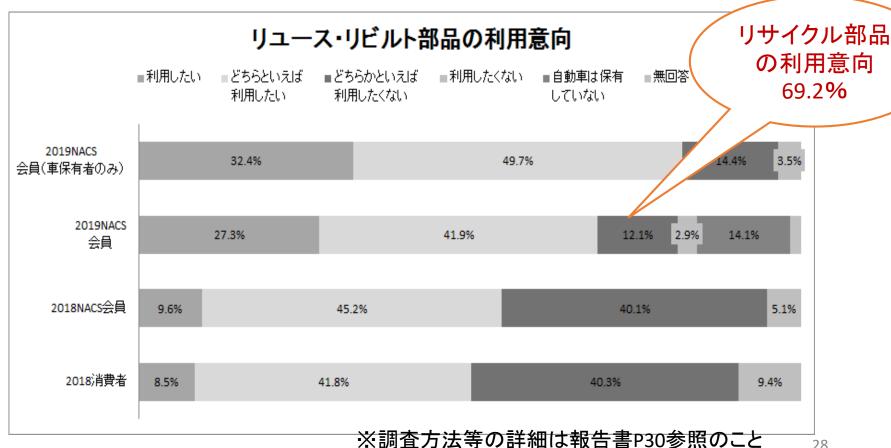


問10 あなたは今後、小冊子で得た自動車リサイクルに関する情報を、 周囲に伝えていきたいと思いますか。(〇は1つ) 問10付問 誰に/どのように、伝えていきたいとお考えですか。



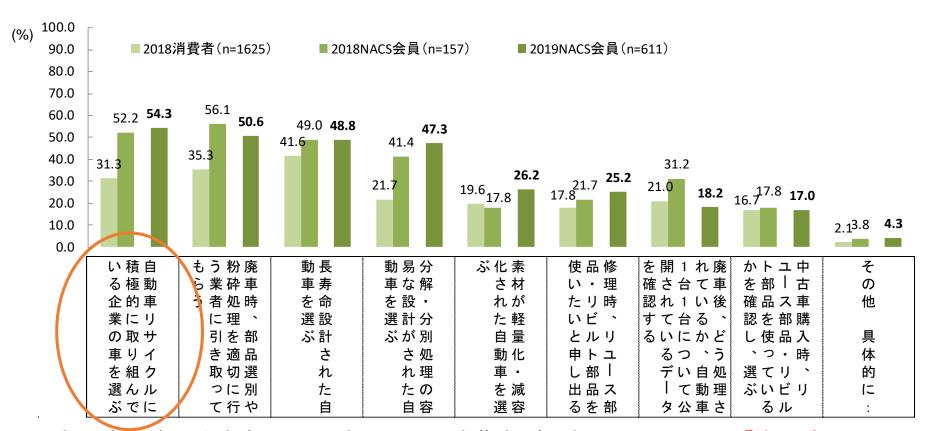


- リサイクル部品の利用意向は、「利用したい」27.3%、「どちらかといえば利用した い 141.9%と、7割が利用意向を示している
- 調査設計が異なるものの、1年目に実施したNACS会員アンケート2018では利用 意向は6割弱であり、小冊子による情報提供の効果が表れているとも考えられる





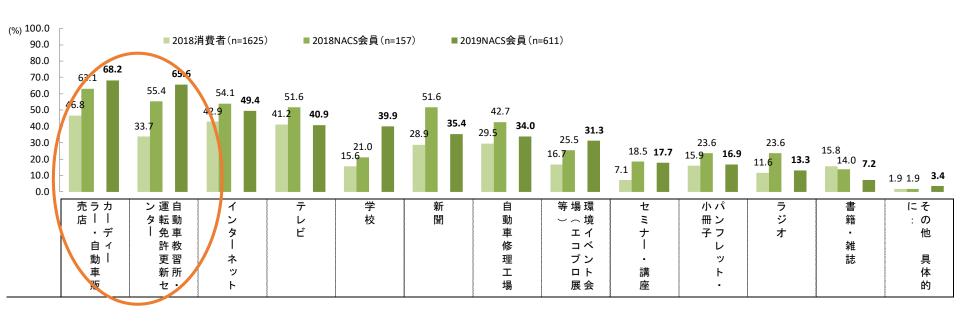
問8 あなたは、自動車の資源を有効に利用するために、何をしたらいいと 思いますか。(回答はいくつでも)



自動車の資源を有効に利用するために消費者ができることとしては、「自動車リサイクルに積極的に取り組んでいる企業の車を選ぶ」が最も多く54.3%、次いで「廃車時、部品選別や粉砕処理を適切に行う業者に引き取ってもらう」50.6%となっている



問9 あなたは今後、自動車リサイクルに関する情報は、どこで提供されると 良いと思いますか。(回答はいくつでも)



• 自動車リサイクルに関する情報提供については、「カーディーラー・自動車販売店」68.2%、「自動車教習所・運転免許更新センター」65.6%が高くなっている



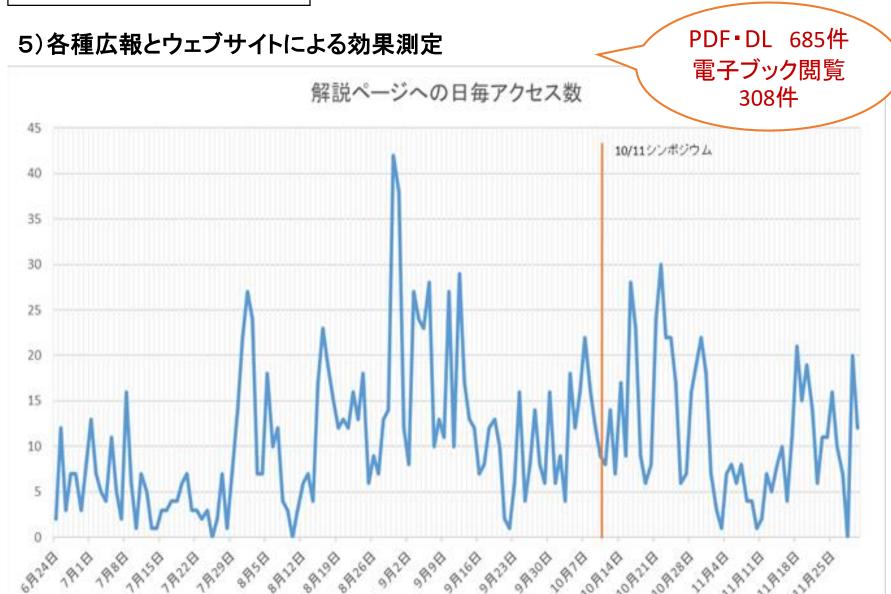
- 2019年度の主な成果
- 5)各種広報とウェブサイトによる効果測定

広報活動 (開始日を記載)

- 7.1 NACS会員宛、冊子『もっと 自動車リサイクル』及びアンケート用紙送付 NACS通信に冊子発行を掲載
- 7.31 グリーン購入ネットワーク GPNメールマガジン(7/31号)掲載
- 8.1 日本自動車整備振興会連合会 HPにてお知らせ
- 8.22 日本自動車リサイクル機構、日本自動車リサイクル部品協議会合同会議にてお知らせ
- 8.26 NACS本部HPトップバナーおよびWhat'sNewでシンポジウムの開催を告知
- 8.27 日本自動車工業会 リサイクル廃棄物部会メンバーにメール配信
- 9月 日本自動車工業会 JAMAGAJINE9月号に記事掲載(3750部) 日本自動車整備振興会連合会 日整連ニュースに記事掲載(9万部)
- 9.13 全国消費者団体連絡会 ニュースレターに記事掲載
- 10.1 日本自動車リサイクル機構 ニュースレター(ウェブ)に記事掲載
- 10.22 環境委員会HPにシンポジウム速報ページ公開
 - ※時期的に下線部がきっかけと思われるアクセス数の増加が観察された



2019年度の主な成果



3 本事業を通して得られた知見



- I 自動車リサイクルの高度化に消費者が果せる役割
- 自動車は資源の塊であり、自動車リサイクルは資源循環の意味で非常に重要である。 <u>消費者は自動車リサイクルの仕組みを理解</u>したうえで、資源循環のレベルを高めるために<u>できることがあることを知る必要</u>がある。
- 消費者が「もっと」できることとしては、<u>リユース・リビルト部品の活用や、環境配慮設計</u> の自動車の普及への寄与が考えられる。
- 環境配慮設計の自動車の普及に関しては、自動車を保有しない消費者も、自動車を 使ったサービス(<u>レンタカーやカーシェアリング、宅配など)を選択する場合に、環境配</u> 慮設計の自動車を使っている事業者を選ぶ、という選択肢がある。

3 本事業を通して得られた知見



Ⅱ 効果的な普及啓発のあり方

- 消費者への情報提供は、環境配慮型自動車の普及は購入のタイミングで<u>販売店から、</u>リサイクル部品の普及は修理に直面するタイミングで<u>修理工場から説明</u>されることが望ましい。
- ・ <u>リサイクル工場見学会をセットにしたセミナー</u>は、消費者の自動車リサイクルへの ポジティブイメージの醸成や啓発活動への意欲の向上に<u>効果的</u>である。



4 今後の課題と想定される解決方法(考察)



- ■リサイクル部品の利用促進に向けて
- 販売店や整備工場等が、修理や整備の相談に対応する際、新品部品だけでなく、 リサイクル部品の選択肢を示すことが必要。
- 整備工場の多くは中小零細のため、消費者からの質問がない段階でリサイクル部品を一から説明するのは困難
- →新聞・TV・雑誌などのマスコミが広くリサイクル部品の存在と意義を知らせる
- →業界が協力してわかりやすい<u>説明ツール(チラシや簡単なムービーなど)を</u> <u>作成・普及</u>する
- リサイクル部品に関して、消費者の不安を緩和できる取り組みが必要
- →リサイクル部品の品質保証に向けた取り組み
- →リビルト部品に関しては、上記取り組みを進めたうえで、摩耗・劣化する部品は 新品と交換して品質確認を行っているといった取り組みを丁寧に伝えることも有効

4 今後の課題と想定される解決方法(考察)



- ■環境配慮型自動車の普及に向けて
- リサイクル部品やリサイクル素材を使うことに対しての名誉感、社会的な価値が上がることが重要
- →内装のような表舞台にリサイクル素材を使い、<u>積極的にアピール</u>すると、消費者 の関心の持ち方も変わってくるのではないか
- 自動車販売店、ディーラーからの情報提供が必要
- →自販連が取り組んでいる<u>研修などで</u>本冊子を活用していただき、<u>消費者に環境</u> <u>側面の情報を伝えることの必要性をもっと訴求する</u>
- →販売の現場からは、周知・普及には<u>免税措置など経済的インセンティブ</u>が不可欠 との声も示された
- →販売店には<u>自動車メーカーからも</u>、環境側面の説明に力を入れるよう<u>働きかける</u>。 メーカー独自のインセンティブを設けることも一案
- ・宅配やカーシェアリングなど、自動車を使ってサービスを提供する事業者が、環境 配慮型自動車の導入を進め、それをアピールすることをもっと推進すべき

4 今後の課題と想定される解決方法(考察)



- ■自動車リサイクルの高度化に向けて
- 電池の回収、再利用、リサイクルの仕組みづくり
- Car to Carの取り組みを進める
- 次世代車がどのようなものになるかを見通しつつ、そのリサイクルも作る時から考えることが必要
- カーシェアリングが本格的に普及する中、関係者が協力して環境配慮型の自動車の普及を加速させていくことが大切。移動や運搬のサービス提供事業者の環境への取り組みを促し、それがアピールされるよう働きかけることが必要
- 自動車だけでなく電化製品や工業製品など、品目横断的な視点や、サプライチェーン全体を視野に入れた資源循環に取り組むことが必要
- 消費者と自動車リサイクル関係者がともに現状を踏まえてあるべき姿、できること を考える場は今後も必要なのではないか



ありがとうございました

